

普賢寺地域の今と将来を考える～ヨソモノによる普賢寺地域の活性化～ 大阪国際大学 「ひと・まち・つくる」プロジェクトAチーム

1. はじめに

私たちが考える普賢寺における活性化とは内部資源の利活用である。これは、普賢寺が現在市街化調整区域に指定されていることによる。そこで、まちづくりのキーパーソンであると考えているヨソモノを如何にして普賢寺に誘致するのかが重要であると考えた。

2. 問題の認識

(1) 普賢寺の現状

- ・ 人口 276 人、高齢化率 32.2%、世帯数 91 世帯
- ・ 荒廃農地面積…畑 571,250 m² (約 57ha)

(2) ヒアリング調査結果

期間：3月3日（月）まで

場所：普賢寺地区（打田・高船・多々羅・天王・普賢寺・水取）

対象：普賢寺地区住民・他地域住民（ふれあい道の駅出品者）

- ・ 多くの普賢寺地区の住民が求めていること
- ① ヨソモノが定期的・継続的に地域で活動すること
- ② ヨソモノやワカモノとの交流・意見交換
- ③ 後継者不足・耕作放棄地の増加を食い止める

以上のことから、内部資源を利活用し、定期的・継続的にヨソモノ・ワカモノが地域で活動する仕掛け・仕組みを住民が求めていると認識した。

3. 政策提案

N-1（農業 No.1）グランプリの開催

(1) 概要

- ・ 普賢寺に点在している荒廃農地を使用
- ・ 通年で開催
- ・ 地域住民・ヨソモノ混在チーム
- ・ 通年総合得点で優勝決定

(2) 審査方法

- ・ 同志社大学食堂にて販売、味等5段階評価
- ・ 1ヶ月間販売し、評価点の平均点で順位を決める

(3) ルール説明

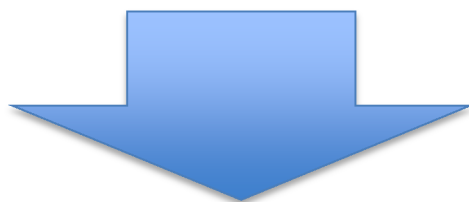
- ・ 耕作放棄地を再生農地にすることからスタート
- ・ 季節に応じた野菜の栽培
- ・ 収穫後の料理は各チームでレシピ提案
- ・ 2月一斉スタート後の行動は各チーム自由

(4) ヨソモノの拠点

現在問題となっている、空き部屋問題を逆手に、京田辺市役所が補助し、住み込みすることにより、空き部屋問題の解消にも繋がると考えられる。

4. N-1開催にて予想される効果

- ・ 交流人口の増加
- ・ 耕作放棄地の減少
- ・ 後継者を見いだすきっかけ
- ・ 6次産業化に繋がる
- ・ 農業従事者のモチベーション増加 ...等



N-1 グランプリで普賢寺から農業を活性化すると共に、ヨソモノを交えた農業の新たな形態を全国に提示することができると考えられる。